

## 平成22年度宮古群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

### 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	30	30
平年並	40	40	40
低い(少ない)	40	30	30

(平成22年11月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

#### 平年値

	平均気温( )	最高気温( )	最低気温( )	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	19.4	21.7	17.5	136.1	95.5

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

### 12月の発生予報および防除上の注意事項

#### 1 さとうきび

メイチュウ類・ハリガネムシ(サキシマカンシャクシコメツキ)の防除対策

- a 11月上旬の調査の結果、新植圃場における芯枯茎率は0.3%(前年0.3%、平年3.2%)と平年よりやや少なかった。
- b 11月のカンシャクシコメツキハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は、12.8頭(前年8.1頭、平年9.3頭)とやや多かった。
- c 生育初期の加害による芯枯防止のため、食入初期の幼虫を対象にした防除を行う。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用する。

野その防除対策

- a 11月下旬の宮古地区病害虫対策協議会による宮古島内全域の被害調査の結果、調査した収穫予定56圃場(夏植)のうち、被害圃場率は26.8%、被害茎率は0.3%であった。
- b ブリックス上昇に伴い被害の増加が予想されることから、台風等により倒伏している圃場や例年被害が多く見られる地域では、薬剤防除を徹底する。
- c 地域で一斉に防除することで、より防除効果が高まる。

#### 2 マンゴー

花芽分化期の防除対策

- a 11月中旬の見取り調査の結果、チャノキイロアザミウマの葉当たり虫数は0.1頭未満(前年4.4頭、平年1.1頭)とやや少なく、ハダニ類の葉当たり虫数は0.3頭(前年0.1頭未満)であった。また一部の圃場で炭そ病の発生が見られた。
- b チャノキイロアザミウマやハダニ類、カイガラムシ類の動向に注意し、防除を徹底する。
- c 炭疽病、軸腐病およびかいよう病対策のため予防散布を行う。また、残渣物は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- d 現在発生している不要な新梢は、病害虫の発生源となることから、ビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し処分する。

### 3 かぼちゃ

着果期までの防除対策

- a 11月下旬の調査の結果、ハモグリバエ類の寄生葉率は10.4% (前年33.0%)であった。また一部の圃場でアブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病の発生が見られた。
- b ハモグリバエ類、アブラムシ類、コナジラミ類等の害虫は、発生源となる圃場内外の雑草を除去し、早期発見・早期防除に努める。
- c 着果期以降はうどんこ病の発生が増加しやすいので、予防散布を行い、発生が確認されたら防除を徹底する。また、着果前後には不要な下葉を除去し、透光通風をよくする。

### 4 にがうり(施設)

うどんこ病の防除対策

- a 11月下旬の調査の結果、一部の圃場でうどんこ病の発生が確認された。
- b ネット下の葉や老葉などを除去して透光通風をよくする。
- c 粉剤などで予防散布を行い、発生が確認されたら防除を徹底する。

### 5 とうがん(施設)

交配～収穫期の防除対策

- a 11月下旬の調査の結果、一部の圃場でハモグリバエ類の発生が確認された。
- b ハモグリバエ類、アブラムシ類、コナジラミ類等の害虫は、発生源となる圃場内外の雑草を除去し、早期発見・早期防除に努める。
- c うどんこ病は粉剤などで予防散布を行い、発生が確認されたら防除を徹底する。また、着果期以降は不要な下葉を除去し、透光通風をよくする。